

2024・5

柏の景気情報

令和6（2024）年5月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和6年5月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

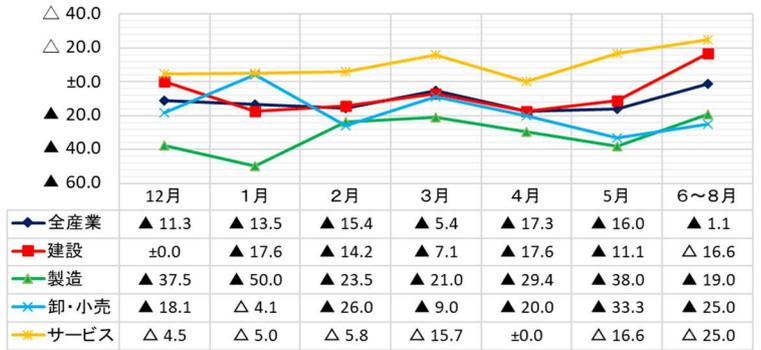
回答期間：令和6年5月21日～令和6年6月5日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数87

各費用の高騰が継続するも、見合った価格転嫁には至らず。売上は上昇するも収益環境は変わらず。

5月の全産業合計のD I 値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲16.0（前月水準▲17.3）となりマイナス幅が1.3ポイント縮小した。

全業種に共通して、コスト負担増と人手不足は継続。中でも製造業は価格転嫁交渉中にも原材料価格が高騰する状況が続いているため、価格転嫁が追い付かないといった声が目立つ。卸小売やサービス業では度重なる値上げに客単価の低下を感じるコメントが多数寄せられた。また、6月から始まる定額減税の対応に追われており、業務負担の増加が懸念される。

柏の景気情報・産業別業況DI



★業種別の動向

前月と比べたD I 値の動き 改善 横ばい 悪化



「能登の地震によって、木造建築の耐震工事への関心が高まり、補助金が1日で終わった。内窓の断熱工事に補助金が出ているが、昨年と比べて今一つ伸び悩んでいる。」（一般土木建築工事） 「畳工事でさっぱりした和室で夏を迎えたいという需要が多く、受注増加」（畳工事請負・畳製造販売） 「地質調査関連は緩やかに好転が見込まれるものの、インボイス制度対応や定額減税の対応にも事務が追われている。」（地質調査）



「輸入品の仕入材料が多い中、円安の影響で更なる値上げが出てきている。製品への価格転嫁は、受け入れが困難で労力も掛かり容易ではない。中途採用の募集を掛けたが応募が少なく、あらためて人手不足を強く感じている。」（その他の化学工） 「価格転嫁が思うように進まない。理由は社内体制の遅れ、客先都合による遅滞。今年に入って注文数の減少が著しい。よって売上高減少、資金繰りへの影響が大きい。」（金属製品）



「GWは人の流れが外出に傾いたせい、日常のお買い物は苦戦した。野菜高騰で買い控えが目立つ。逆に冷凍食品や野菜飲料は伸長した。」（大型小売店） 「趣味の雑貨など好調継続も、食物販・サービス関連の伸び鈍化。度重なる値上げによるコスト増と慢性的な人手不足の声が多く、消費マインド悪化懸念。」（百貨店） 「スポット市場で価格が高騰しているため、仕入に苦労している」（飲食料点小売業）



「仕入や消耗品価格の高騰が止まる気配が無い。同業他社と比べてすでに割高な価格のため、価格転嫁はすぐには難しい。賃上げの圧力、電気料金の補助金廃止や猛暑も予想されるため向こう3ヶ月はかなり厳しくなるであろう。」（ゴルフ練習場） 「土地価格は、落ち着いた。需要は底固い。購入希望のお客様はたくさんいるが、このところの価額上昇が急激だったために、心理的についてこれない状態である。」（不動産管理） 「コロナ後からたびたび続く原材料価格の値上げで原価上昇。」（日本料理）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲16.0に対し、「CCI-LOBO」が▲11.4で、柏のほうがマイナス幅が4.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業・製造業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 17.3	 ▲ 17.6	 ▲ 29.4	 ▲ 20.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 11.4	 ▲ 16.5	 ▲ 13.6	 ▲ 16.6	 ▲ 0.8
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 1.4	 ▲ 11.7	 ▲ 35.2	 20.0	 20.0
CCI-LOBO	 1.6	 ▲ 8.1	 0.8	 ▲ 7.3	 14.3
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 20.2	 ▲ 23.5	 ▲ 41.1	 ▲ 15.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 12.9	 ▲ 18.0	 ▲ 12.2	 ▲ 17.1	 ▲ 5.6
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 68.1	 ▲ 52.9	 ▲ 82.3	 ▲ 75.0	 ▲ 60.0
CCI-LOBO	 ▲ 68.5	 ▲ 76.6	 ▲ 63.3	 ▲ 72.1	 ▲ 66.0
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 24.6	 35.2	 17.6	 20.0	 26.6
CCI-LOBO	 21.3	 33.0	 10.9	 20.3	 28.1
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.0	 ▲ 11.7	 ▲ 11.7	 ▲ 15.0	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 10.1	 ▲ 8.4	 ▲ 11.3	 ▲ 14.9	 ▲ 7.3

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (5月速報)

調査期間：2024年5月16日～22日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、観光需要等が下支えし、5か月ぶり改善

先行きは、物価高・人手不足等の継続で慎重な見方

5月の全産業合計の業況DIは、▲11.4と前月比からプラス2.6ポイント。

製造業は、需要が堅調な食品関係や自動車関係中心に、

品関係や自動車関係中心に、

改善した。卸売業も飲食品関係の引き合い増で、改善した。また、サービス業も、大型連休を中心とした国内外の観光需要の増加で、改善した。一方、小売業は、物価高に伴う消費者の買い控え継続で力強さを欠き、建設業は、建設資材価格の高騰や住宅関係の需要低迷で足踏みしている。

企業間取引を中心に一定程度の価格転嫁の進歩がみられるものの、輸送費やエネルギー価格、労務費の上昇分に追い付いていない。深刻な人手不足や円安等によるコ

スト増も継続しているが、堅調な観光需要が下支えし、中小企業の業況は5か月ぶりに改善となった。

先行き見通しDIは、▲13.4と今月比からマイナス2.0ポイント

高水準での賃上げや定額減税の開始に伴う可処分所得の増加による、個人消費の拡大が期待される。

一方、歴史的な円安等で物価高が継続する中、電気・ガス代へ激変緩和措置も終了となり、一層の収益悪化が懸念される。また、労務費を含むコスト増に対する価格転嫁が十分に行えていない中、深刻な人手不足による受注機会の損失も生じており、先行きは慎重な見方が続いている。

【建設業】

「建築資材価格が高止まりする中、住宅関連を中心に民間工事の不振が継続している。公共工事に下支えされているが、物価の上昇に価格転嫁が追い付いておらず、収

益は悪化が続いている」（一般工業業）

「同業他社の廃業もあり、案件は増えているものの、専門人材が不足しており、仕事を断らざるを得ないことがある」（電気工業業）

【製造業】

「販売価格の賃上げ効果で利益率は改善されている。一方、今後も原材料・燃料の高騰に伴うコスト増が見込まれる中、人材確保に向けて賃上げも継続して行つて育が必要があるため、再度の賃上げが必須である」（自動車・付属品製造業）

「業況は改善しているが、円安により輸入コストは増加している。加えて輸送費も15%程度増加が見込まれており、先行きは厳しい」（水産食品製造業）

【卸売業】

「取引先の飲食店を中心に引き合いは増えている。一方、物流2024問題に伴って、市場に届く品物の到着の遅延が発生し始めており、鮮度を

維持した商品の運送が課題となっている」（農畜産水産物卸売業）

「仕入価格の上昇分以上の価格転嫁を行い、賃上げを実施。しかし、円安によるコスト増は続いており、次年度の賃上げは未定である」（食料・飲料卸売業）

【小売業】

「インバウンド・国内観光の回復に伴い、高付属価値商品では売上が好調。一方、物価高により一般顧客の消費は低迷している。加えて、電気代の高騰や人材確保に向けた賃上げ、消耗品当のコスト増は継続しており、採算は上がっていない」（百貨店）

「輸入品の価格高騰が著しい。賃上げに向けて労務費増加分の価格転嫁も行いたい。消費者離れが危惧され、タイミン

【サービス業】

「補助金も活用し、店舗設備投資を実施。快適な宿泊環境を整備できたことで、顧客の満足

度を向上させることができた。一方、目下の課題は人手不足であり、予約を断る状況にもなっている。そのため、もったいない。労働環境の整備し、人材確保を図っていきたい。」（宿泊業）

「大型連休の恩恵もあり、売上は3割ほど増加したものの、原材料やエネルギー価格が上昇しており、利益率は前年度より悪化している」（飲食店）

全国・産業別業況DIの推移

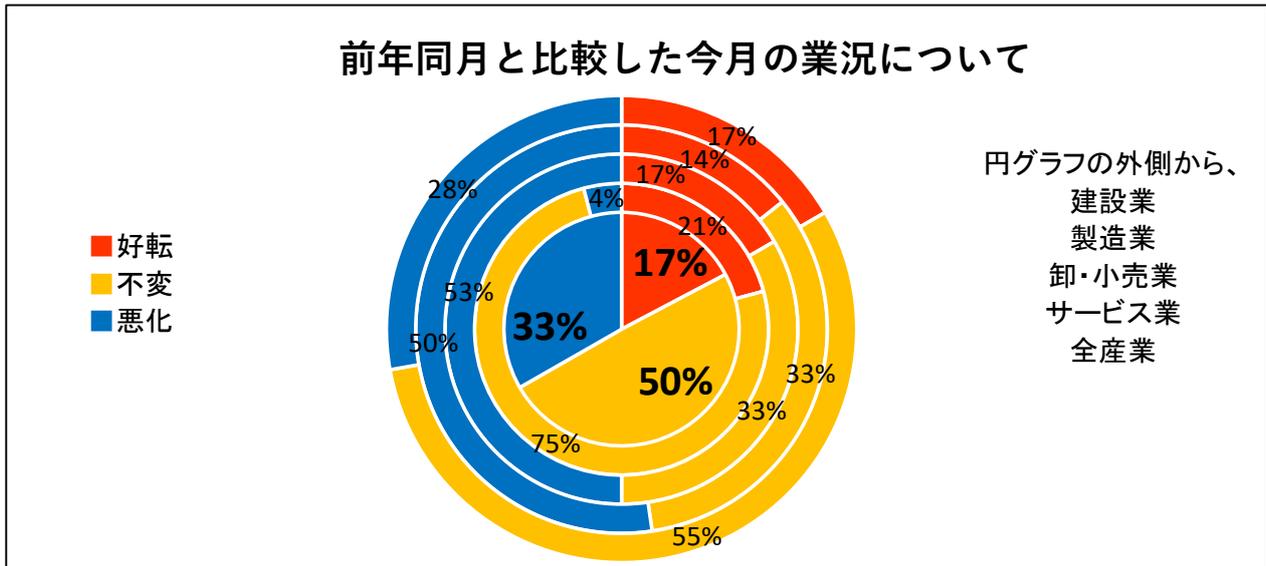
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲ 8.4	▲ 11.0	▲ 8.1	▲ 6.9	▲ 20.8	△ 2.4
1月	▲ 11.4	▲ 12.3	▲ 13.4	▲ 10.4	▲ 16.2	▲ 5.2
2月	▲ 12.9	▲ 13.0	▲ 17.0	▲ 19.2	▲ 14.4	▲ 4.4
3月	▲ 12.9	▲ 15.6	▲ 14.8	▲ 17.4	▲ 17.9	▲ 3.8
4月	▲ 14.0	▲ 16.5	▲ 21.7	▲ 16.6	▲ 16.5	▲ 2.4
5月	▲ 11.4	▲ 16.5	▲ 13.6	▲ 14.8	▲ 16.6	▲ 0.8
見通し	▲ 13.4	▲ 14.7	▲ 14.4	▲ 19.6	▲ 19.6	▲ 4.1

令和6年（2024年）5月の動向

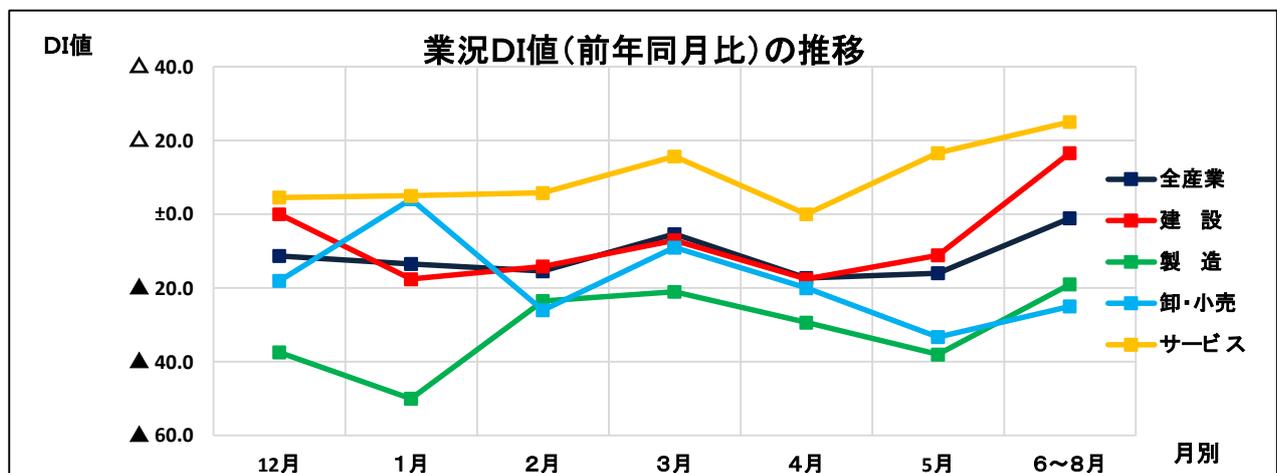
【業況について】

- 5月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲16.0（前月水準▲17.3）となり、マイナス幅が1.3ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（6月から8月）の先行き見通しについては、全産業では、▲1.1（前月水準▲13.0）となり、マイナス幅が11.9ポイント縮小した。



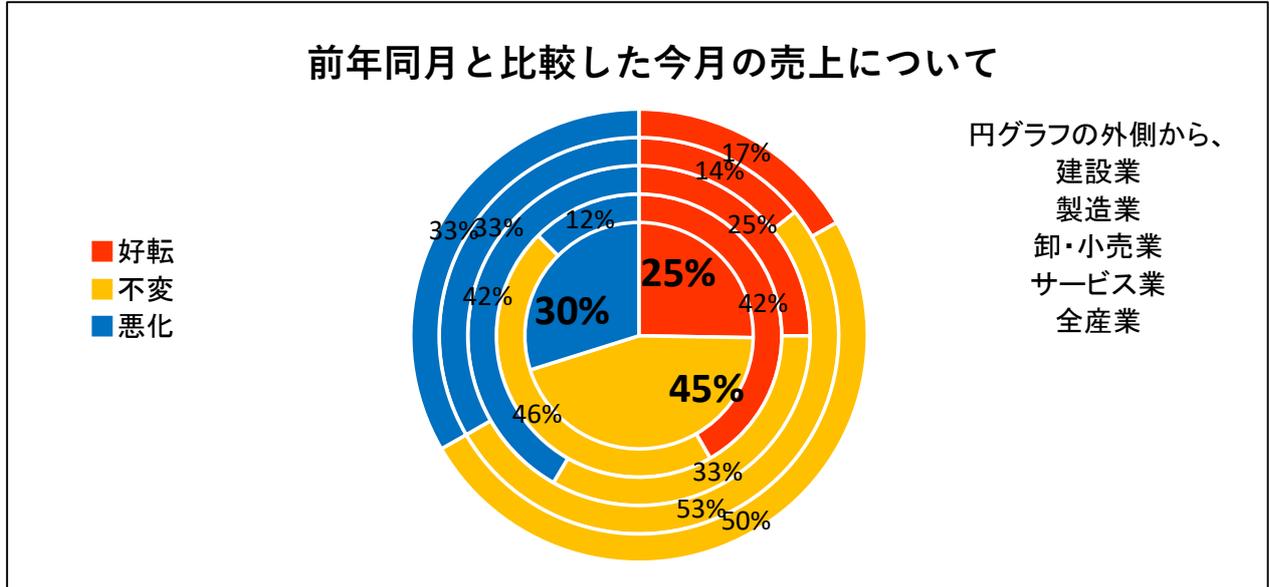
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6~8月（5~7月）	
全産業	▲11.3	▲13.5	▲15.4	▲5.4	▲17.3	▲16.0	▲1.1（▲13.0）	
建設	±0.0	▲17.6	▲14.2	▲7.1	▲17.6	▲11.1	△16.6（△11.7）	
製造	▲37.5	▲50.0	▲23.5	▲21.0	▲29.4	▲38.0	▲19.0（▲35.2）	
卸・小売	▲18.1	△4.1	▲26.0	▲9.0	▲20.0	▲33.3	▲25.0（▲15.0）	
サービス	△4.5	△5.0	△5.8	△15.7	±0.0	△16.6	△25.0（▲13.3）	



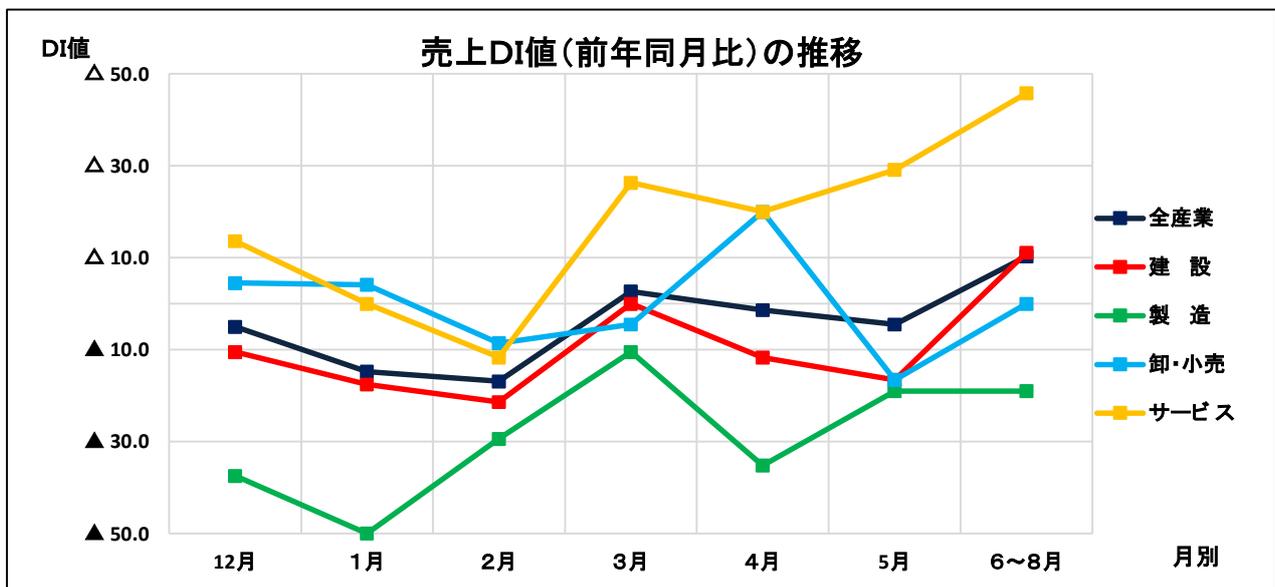
【売上について】

- 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.5(前月水準▲1.4)となり、マイナス幅が3.1ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△10.3(前月水準△5.7)となり、プラス幅が4.6ポイント拡大した。



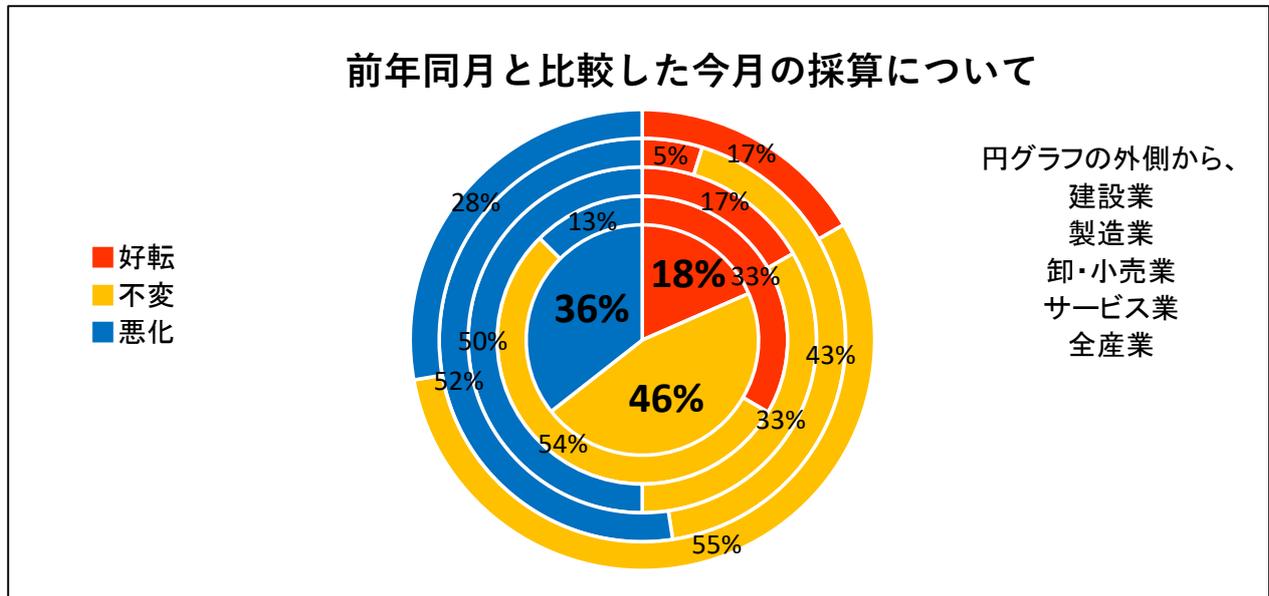
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	12月	令和6年					先行き見通し	
		1月	2月	3月	4月	5月	6~8月 (5~7月)	
全産業	▲5.0	▲14.8	▲16.9	△2.7	▲1.4	▲4.5	△10.3 (△5.7)	
建設	▲10.5	▲17.6	▲21.4	±0.0	▲11.7	▲16.6	△11.1 (△11.7)	
製造	▲37.5	▲50.0	▲29.4	▲10.5	▲35.2	▲19.0	▲19.0 (▲23.5)	
卸・小売	△4.5	△4.1	▲8.6	▲4.5	△20.0	▲16.6	±0.0 (△20.0)	
サービス	△13.6	±0.0	▲11.7	△26.3	△20.0	△29.1	△45.8 (△13.3)	



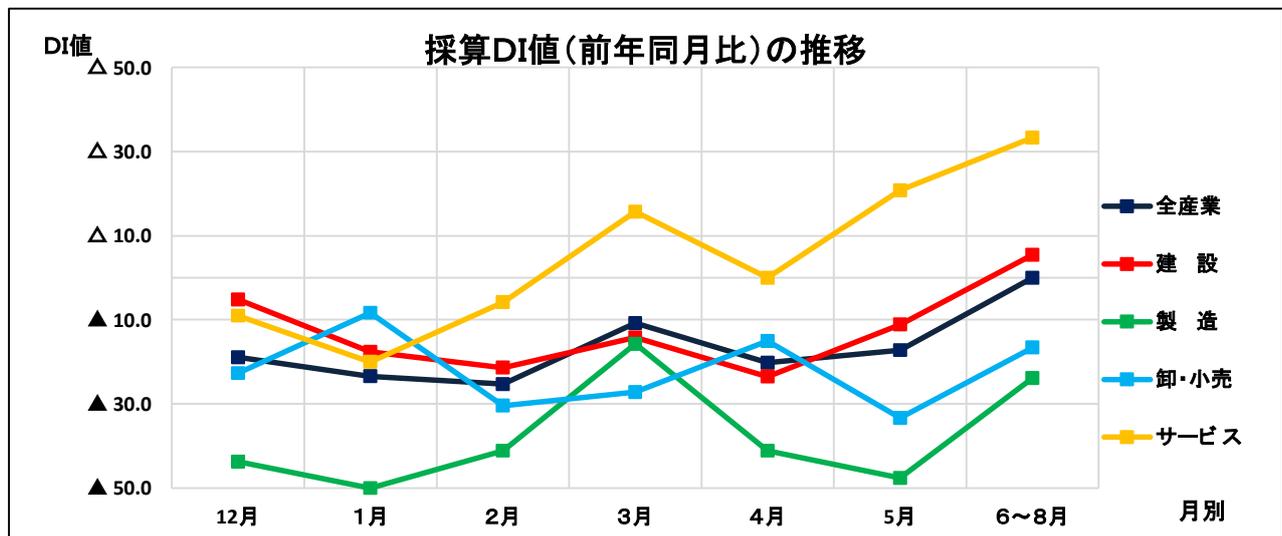
【採算について】

- 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.2(前月水準▲20.2)となり、マイナス幅が3.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、0.0(前月水準▲13.0)であり、マイナス幅が13.0ポイント縮小する見通しである。



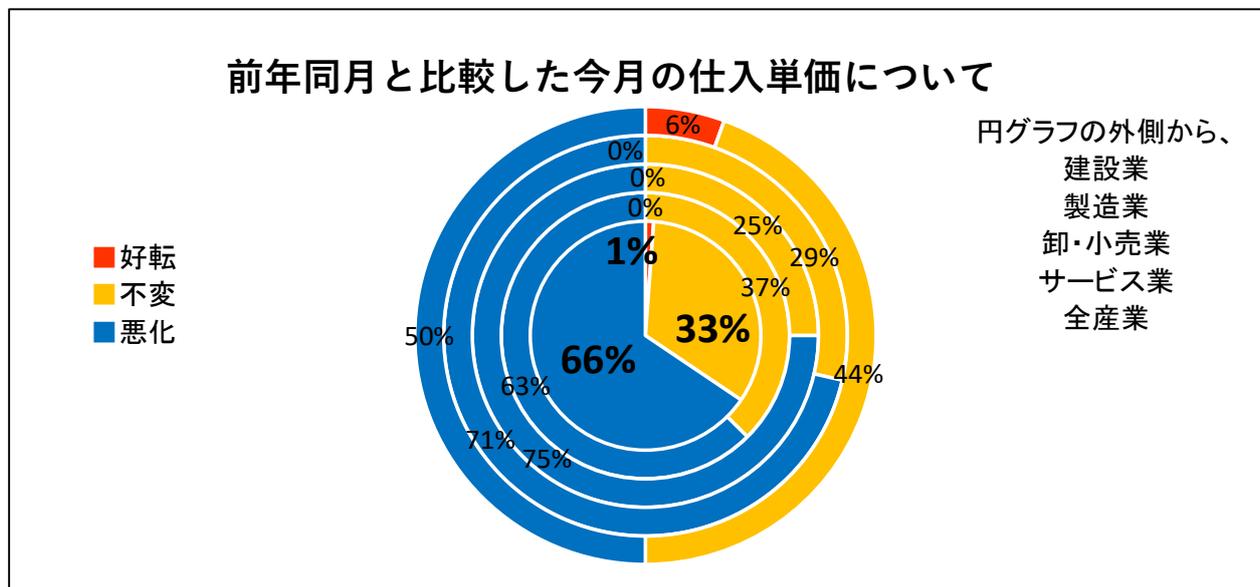
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6~8月 (5~7月)	
全産業	▲18.9	▲23.4	▲25.3	▲10.8	▲20.2	▲17.2	±0.0 (▲13.0)	
建設	▲5.2	▲17.6	▲21.4	▲14.2	▲23.5	▲11.1	△5.5 (△5.8)	
製造	▲43.7	▲50.0	▲41.1	▲15.7	▲41.1	▲47.6	▲23.8 (▲35.2)	
卸・小売	▲22.7	▲8.3	▲30.4	▲27.2	▲15.0	▲33.3	▲16.6 (▲25.0)	
サービス	▲9.0	▲20.0	▲5.8	△15.7	±0.0	△20.8	△33.3 (△6.6)	



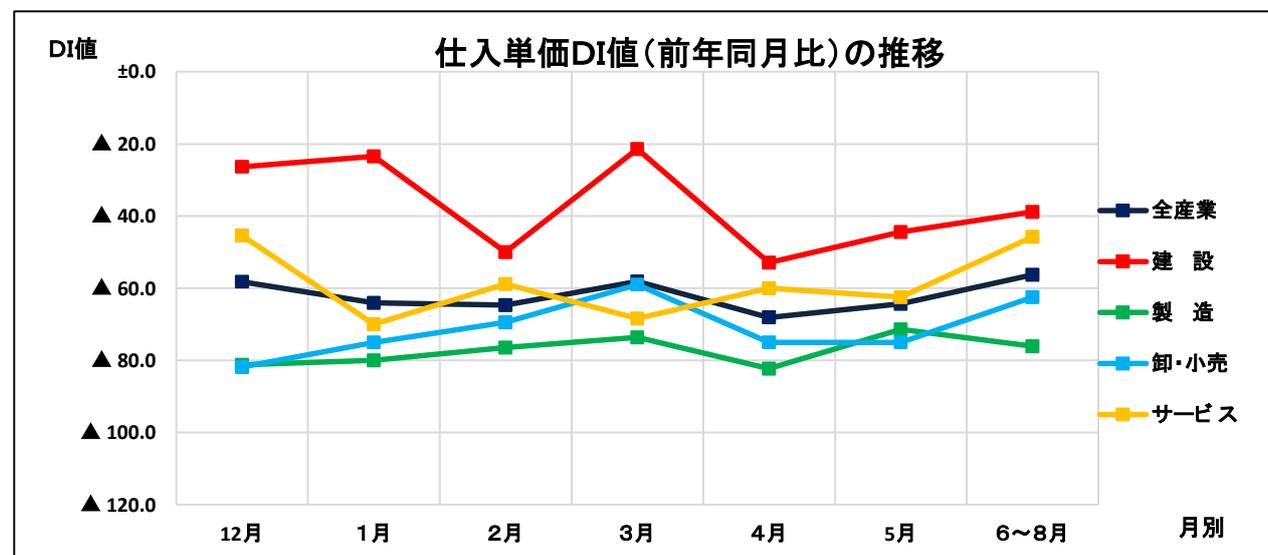
【仕入単価について】

- 5月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲64.3(前月水準▲68.1)となり、マイナス幅が3.8ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲56.3(前月水準▲69.5)となり、マイナス幅が13.2ポイント縮小する見通しである。



仕入単価D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

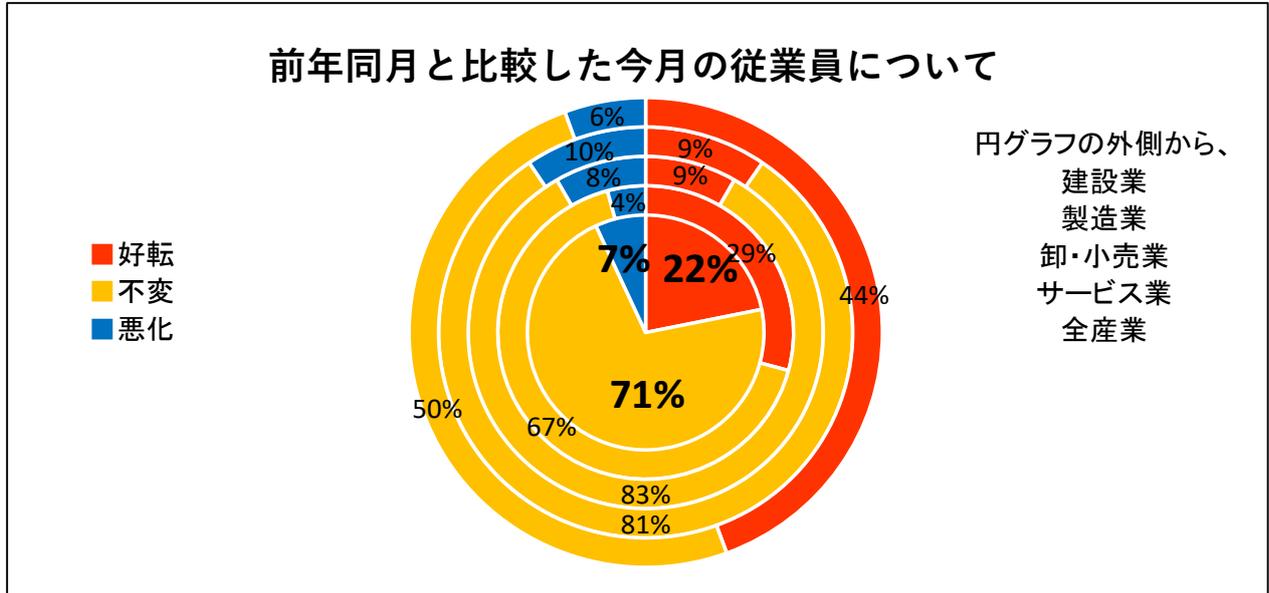
	令和6年						先行き見通し	
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6~8月 (5~7月)	
全産業	▲58.2	▲64.1	▲64.7	▲58.1	▲68.1	▲64.3	▲56.3 (▲69.5)	
建設	▲26.3	▲23.5	▲50.0	▲21.4	▲52.9	▲44.4	▲38.8 (▲52.9)	
製造	▲81.2	▲80.0	▲76.4	▲73.6	▲82.3	▲71.4	▲76.1 (▲82.3)	
卸・小売	▲81.8	▲75.0	▲69.5	▲59.0	▲75.0	▲75.0	▲62.5 (▲85.0)	
サービス	▲45.4	▲70.0	▲58.8	▲68.4	▲60.0	▲62.5	▲45.8 (▲53.3)	



【従業員について】

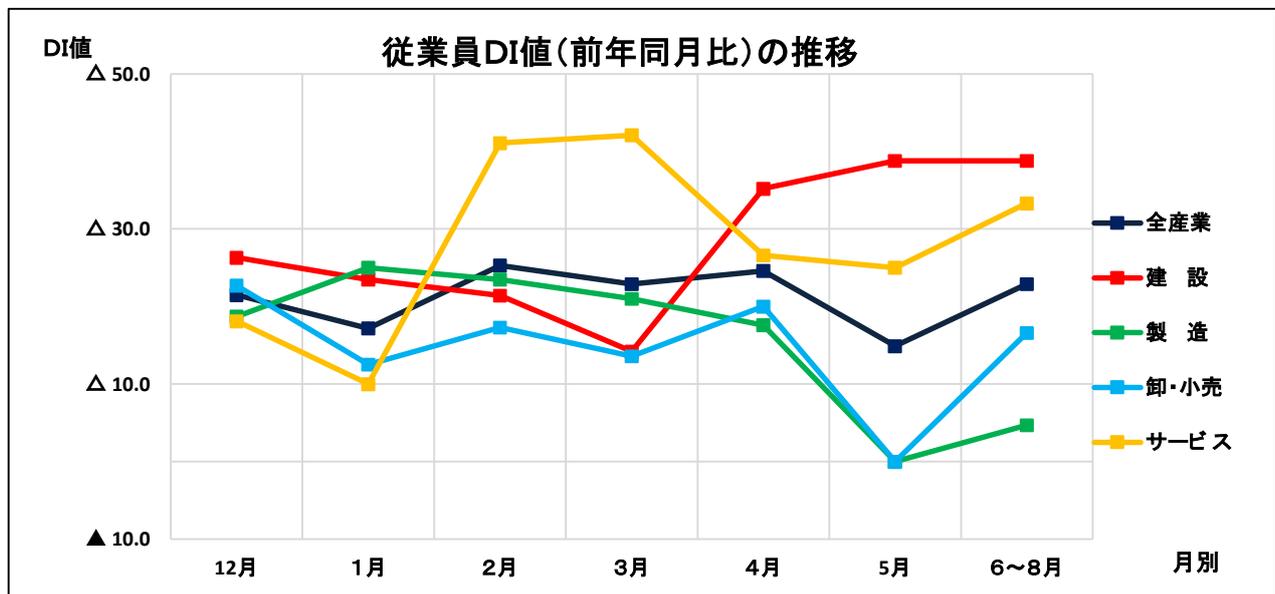
○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△14.9(前月水準△24.6)となり、マイナス幅が9.7ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△22.9(前月水準△20.2)となり、プラス幅が2.7ポイント拡大する見通しである。



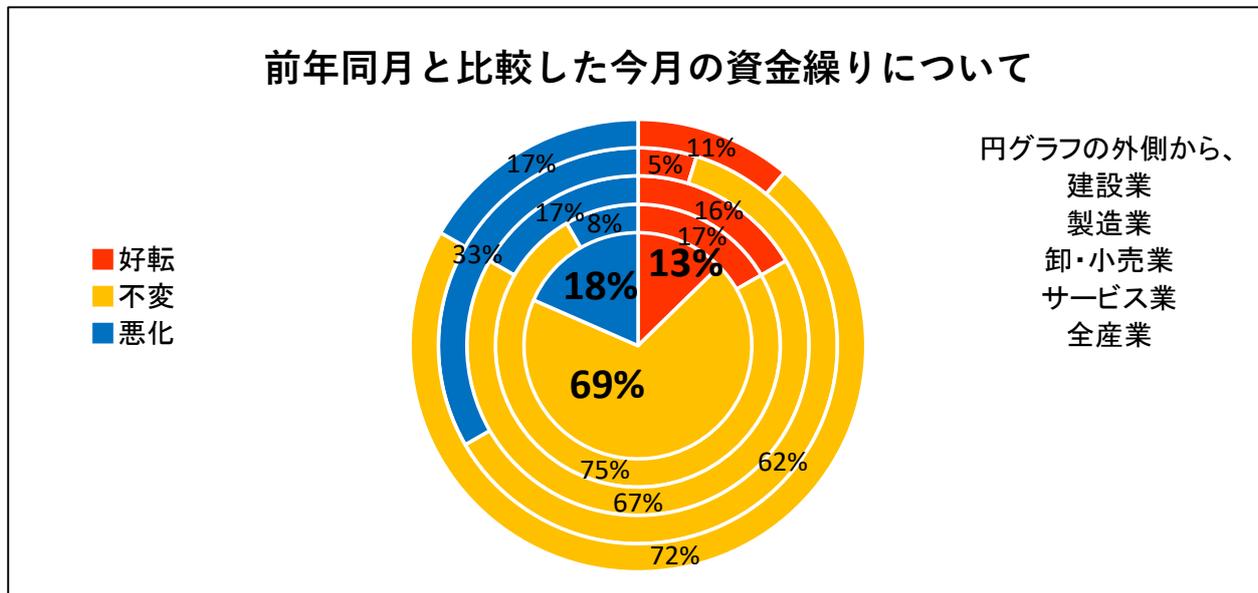
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和6年						先行き見通し
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6~8月(5~7月)
全産業	△21.5	△17.2	△25.3	△22.9	△24.6	△14.9	△22.9(△20.2)
建設	△26.3	△23.5	△21.4	△14.2	△35.2	△38.8	△38.8(△41.1)
製造	△18.7	△25.0	△23.5	△21.0	△17.6	±0.0	△4.7(△11.7)
卸・小売	△22.7	△12.5	△17.3	△13.6	△20.0	±0.0	△16.6(±0.0)
サービス	△18.1	△10.0	△41.1	△42.1	△26.6	△25.0	△33.3(△33.3)



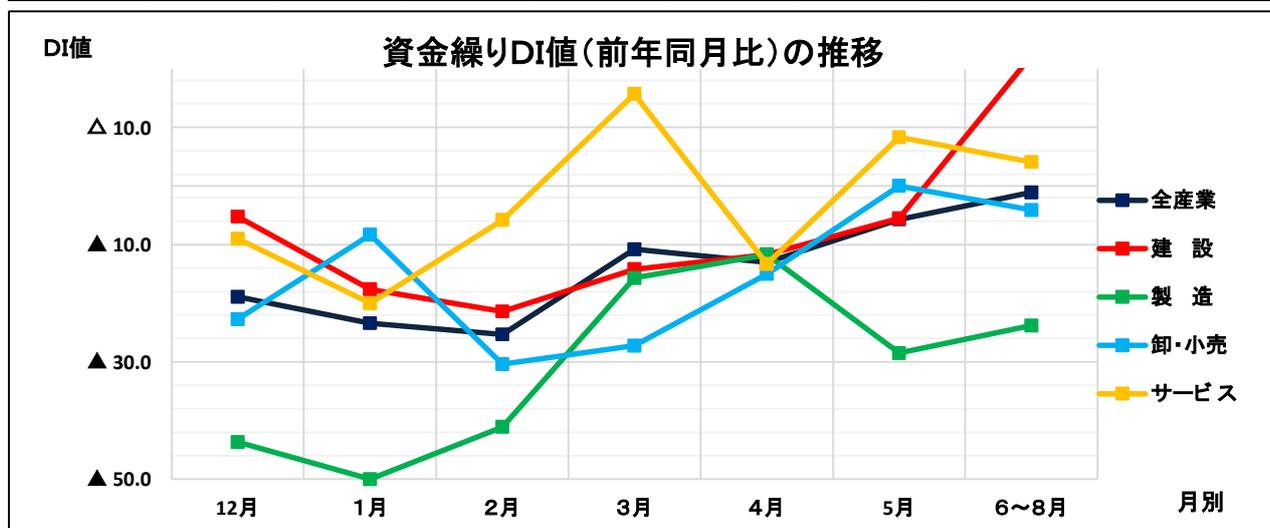
【資金繰りについて】

- 5月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.7(前月水準▲13.0)となり、マイナス幅が7.3ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.1(前月水準▲7.2)となり、マイナス幅が6.1ポイント縮小する見通しである。



資金繰りD I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	12月	令和6年					先行き見通し	
		1月	2月	3月	4月	5月	6~8月 (5~7月)	
全産業	▲18.9	▲23.4	▲25.3	▲10.8	▲13.0	▲5.7	▲1.1 (▲7.2)	
建設	▲5.2	▲17.6	▲21.4	▲14.2	▲11.7	▲5.5	△22.2 (±0.0)	
製造	▲43.7	▲50.0	▲41.1	▲15.7	▲11.7	▲28.5	▲23.8 (▲17.6)	
卸・小売	▲22.7	▲8.3	▲30.4	▲27.2	▲15.0	±0.0	▲4.1 (▲10.0)	
サービス	▲9.0	▲20.0	▲5.8	△15.7	▲13.3	△8.3	△4.1 (±0.0)	

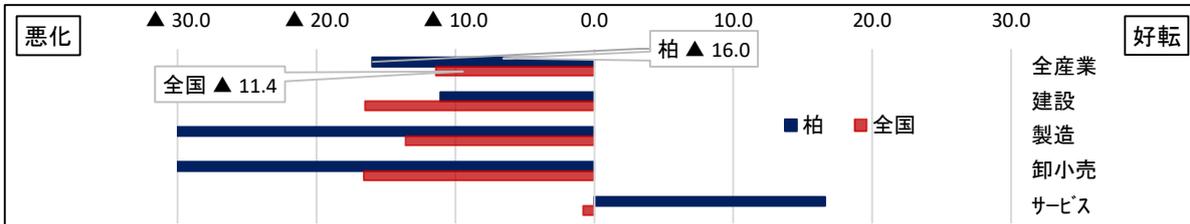


全国（CCI-LOBO）との比較

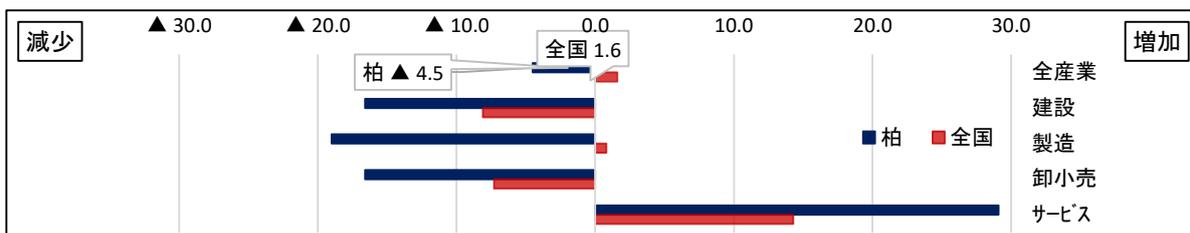
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

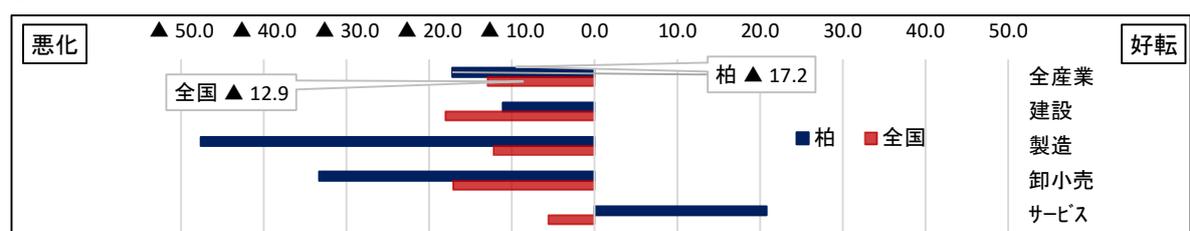
【業況D I】



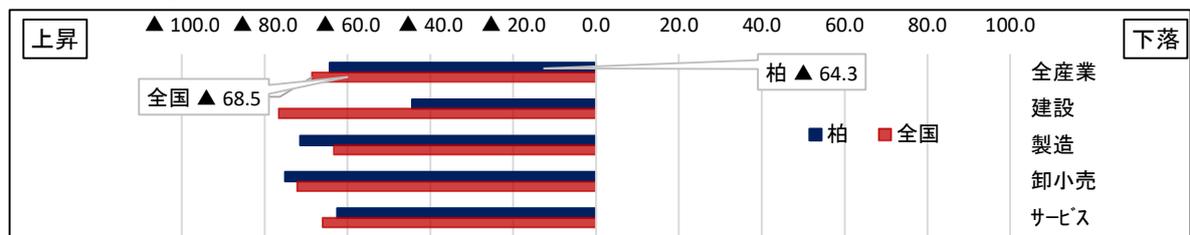
【売上D I】



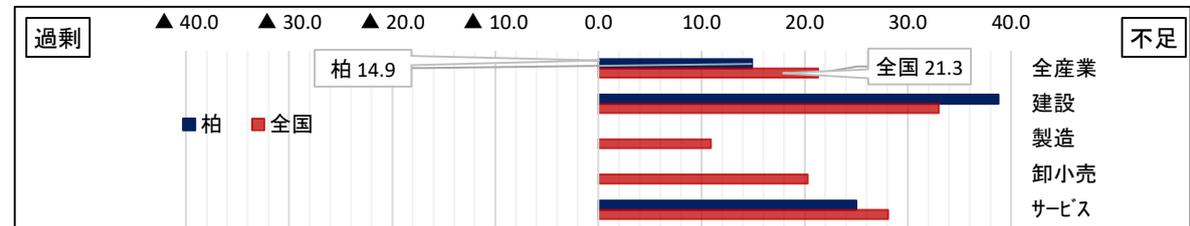
【採算D I】



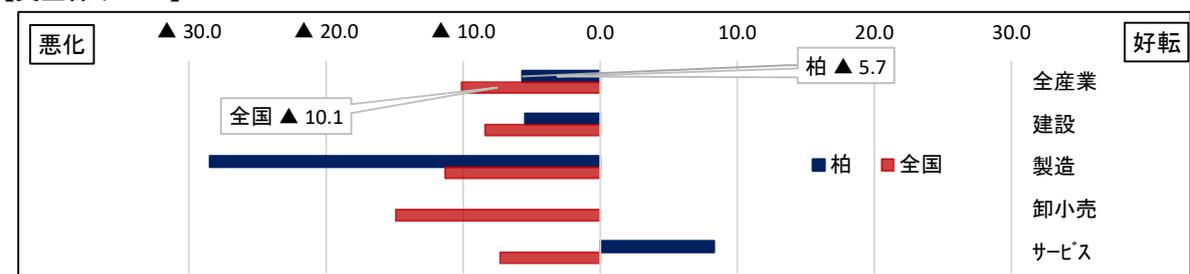
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	畳工事でさっぱりした和室で夏を迎えたいという需要が多く、受注増加	畳工事請負・畳製造販売業
	能登の地震によって、木造建築の耐震工事への関心が高まり、補助金が1日で終わった 内窓の断熱工事に補助金が出ているが、昨年と比べて今一つ伸び悩んでいる	一般土木建築工事業
	地質調査関連は緩やかに好転が見込まれるものの、インボイス制度対応や定額減税の対応にも事務が追われている	地質調査
製造業	原材料のアップは未だに続いている。 価格転嫁を進めてはいるが歯止めがかからない。	その他の機械・同部品製造業
	医療品容器関連のコロナ後の特需が一段落してしまったのと化粧品容器の受注に回復傾向が見られず苦戦は続きそう	プラスチック加工
	4月の値上げに伴い製造量及び出荷量は減少している。	酒類製造業
	価格転嫁が思うように進まない。理由は社内体制の遅れ、客先都合による遅滞。今年に入って注文数の減少が著しい。よって売上高減少、資金繰りへの影響が大きい。	金属製品
	人手不足と言っても現場仕事でAI化出来ない 脳化社会の潮流の中で揉まれているのは小企業である。	印刷業
	定額減税が実施されることとなり、準備に着手している。 3か月先には、材料の値上げがあり、価格転嫁できるか不安である。	印刷業
	賃上げについては、社員のモチベーションや評価の一部として業績の良し悪しに係わらず、毎年行ってきているので、特に今年に大幅な賃上げは行ってない。	自動車・同附属品製造業
	売上は徐々に回復しているが、原材料・人件費等のコスト増により収益は回復する見込みなし 設備投資で品質でユーザー対応・環境で近隣対応しざるおえない状況で生産性を上げる工夫が必要	その他の鉄鋼業

【業種別】 業界内トピックス

	<p>輸入品の仕入材料が多い中、円安の影響で更なる値上げが出てきている。製品への価格転嫁は、受け入れが困難で労力も掛かり容易ではない。 中途採用の募集を掛けたが応募が少なく、あらためて人手不足を強く感じている。</p>	その他の化学工業
卸・小売業	<p>GWは人の流れが外出に傾いたせいか、日常のお買い物は苦戦した。野菜高騰で買い控えが目立つ。逆に冷凍食品や野菜飲料は伸長した。</p>	大型小売店
	<p>趣味の雑貨など好調継続も、食物販・サービス関連の伸び鈍化。度重なる値上げによるコスト増と慢性的な人手不足の声が多く、消費マインド悪化懸念。</p>	百貨店
	<p>最近の物価高の影響で、嗜好品の購買意欲が下がっているように思える。</p>	洋菓子店
	<p>度重なる値上げに客単価が低くなっている。</p>	その他の各種商品小売業
	<p>景況については、昨年はインフレによる需要の落ち込みがみられたが、24年3月以降は需要回復が顕著であり、併せて4月からの販売価格値上げが加わり、景況は大きく改善している。 今後、実質賃金が前年比大きく増えることがあれば、より長期に景況改善が続くと期待している。付加価値の増加によって賃金増は、以前に比べて容易になってきている。先行きについて楽観視している。</p>	古紙卸売業
	<p>スポット市場で価格が高騰しているため、仕入に苦労している</p>	飲食料品小売業
サービス	<p>コロナ後からたびたび続く原材料価格の値上げで原価上昇</p>	日本料理
	<p>学習塾は例年4月で新入会の動きが止まる。今年はまだ若干新入会の問い合わせが続いているが、柏市の中学で1学期の中間テストが実施されなくなったため、テストの結果を見て塾を探す生徒が減るのではないかと不安を感じている。</p>	学習塾
	<p>賃料の上昇がじわりと出始めている感じだが、エリアで、まだら模様。</p>	不動産賃貸・管理業
	<p>土地価格は、落ち着いてきました。 需要は底固いです。購入希望のお客様はたくさんいますが、このところの価額上昇が急激だったために、心理的についてこれない状態です。</p>	不動産管理業

【業種別】業界内トピックス

業	円安の影響が顕著、マスコミ報道の円安報道に影響されたか、海外旅行の復活が見えない、特にハワイは伸び悩んでいる。	旅行
	大型案件が少なくなり、本年度下期が不安、何とか開拓すべきところなのだが。	ソフトウェア業
	仕入や消耗品価格の高騰が止まる気配が無い。同業他社と比べてすでに割高な価格のため、価格転嫁はすぐには難しい。賃上げの圧力、電気料金の補助金廃止や猛暑も予想されるため向こう3ヶ月はかなり厳しくなるであろう。	ゴルフ練習場

調査要領

回答期間

令和6年5月21日 ~ 令和6年6月5日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	87	50.3%
建設	38	18	47.4%
製造	44	21	47.7%
卸・小売	46	24	52.2%
サービス	45	24	53.3%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				